

# 社山(1827m)山行報告



【山行日】2017年1月14日(土)

【集合】栃木市運動公園P AM 7:00

【費用】マイカー1台 : 1,500円

【メンバー】CL:鈴木ユ 石川、伊藤、大西、梶内、島田

栃木市運動公園P7:00＝歌ヶ浜 P8:40/8:55～阿世潟

10:00～阿世潟峠 10:30/10:45～社山 12:30/12:40～

阿世潟峠 13:30～阿世潟 13:45/14:10～

歌ヶ浜P15:20/15:30＝栃木市運動公園 P17:00

若い人たちから雪山のリクエストが多く、この時季に手軽に雪山を楽しめる社山を計画した。

ところが若い方はI川さんだけで、シルバー主体の雪山山行となってしまった。数日前から天気予報は良くなく、気温が低く風も強い予報が出ていた。阿世潟峠まで登ってみて、風が強ければ途中で引き返せば良いと考え決行する。一週間前はかなり降雪があったようだが、いろは坂は除雪されそれほど雪が多くなく順調に走れた。しかしいろは坂に入ると、細かい乾雪が降り続き気持ちはブルーになる。

歌ヶ浜駐車場に着くと車が2台止まっており、売店前の1台の横に止める。トイレは冬季閉鎖になっており、使用できない。売店の軒下を借りて準備を整え、ストレッチを行って出発する。乾雪が降り続く中、中禅寺湖南岸の道を歩いて行くが、何名か先行者がいるようだ。先行者のトレースを拾いながら、1時間程湖岸の道を歩くと阿世潟に着く。休憩を取り衣服調整し、水分を補給する。ここからは阿世潟峠に向かって登りとなり、我輩が先頭で登って行く。先行者のトレースがあるのでありがたく、トレースを忠実に拾い体力を温存する。30分足らずで阿世潟峠に登り、菓子を食べてエネルギーを補給しアイゼンを付ける。ここから2班に分かれ、O嬢とS田さんはゆっくりと行ける所まで登り、他の4名は山頂を目指す。まずは雨量計があるピークへの登りになり、かなりの急登で足が慣れるまできつい。右下に中禅寺湖がうっすらと見えるが、対岸の男体山は全く見えない。雨量計のピークを過ぎたところから少し明るくなり、



八丁出島や男体山の裾野が見えるようになる。さらに高度を上げると風が強くなり、時折雪煙を上げるほどの強風が吹き、耐風姿勢を取って風が弱まるのを待つ。風は強いが薄日が差すようになり、南側の足尾方面ははっきり見えるようになる。時折陽が射すと暖かく、風が強くなるとまた寒くなる。二つ目のピークを過ぎると傾斜がさらにきつくなり、K内さんが遅れ始める。大股で登るため、傾斜がきつくなるとうまく登れないようだ。I藤さんが「K内さんとゆっくり登るから、先に登って」と言ってくれたのでI川さんと先行する。山頂手前の急斜面を登り切ると、緩やかな登りとなり樹林帯を越すと山頂に着いた。山頂には2組5名が登っており、ラッセルのお礼を告げて後続の2名を待つ。山頂は風も無く陽が射ってきて暖かく、足尾方面の展望が楽しめた。間もなく2名が到着し、登頂の喜びを分かち合う。

着いた。山頂には2組5名が登っており、ラッセルのお礼を告げて後続の2名を待つ。山頂は風も無く陽が射ってきて暖かく、足尾方面の展望が楽しめた。間もなく2名が到着し、登頂の喜びを分かち合う。



K内さん手作りの干し芋をいただいたが、甘くてしつとりしてとても美味しく沢山いただいた。山頂で昼食の予定だったが、天気が良くないので記念写真を撮ったら下山する。下山は来た道に戻るが、雪は止み風も弱くなって男体山も八合目くらいまで見えてきた。阿世潟峠まで戻り、O嬢とS田さんが居ないので阿世潟まで下ることにする。峠から少し下ると2人と合流し、阿世潟まで下って昼食を食べる。カップ麺は作らずパンと行動食を食べ、お茶を飲んで温まる。昼食後歌ヶ浜へ向かったが、途中でK内さんの足が攣るハプニング。アミノバイタル4000

を飲ませると直ぐに「治った」と言う。「エ〜〜信じられない」と皆が言ったが、本当に治って痛くなく歩けると言う。皆さんに「本当に痛かったの?」とからかわれながら無事に駐車場に着き帰路につく。天気が良くなく、氷点下10度以下の歩きは足の筋肉に負担が掛かったようで、O嬢は運転で足が攣ると騒いでいた。荒天ではあったが、新雪の雪山を十分に堪能出来た山行だった。

